柴山地域プロジェクト（船首ブリッジタイプ）
もうかる漁業創設支援事業実証結果報告

【事業実施者：但馬漁業協同組合】

実証期間：平成21年9月1日～平成24年8月31日

柴山地域の沖合底びき網漁業において、ズワイガニを主対象とする船首ブリッジ型でハードオーニングを導入した105トン型実証船を用船し、操業時の安全を図り、省エネ船型、軸発電機等の採用による燃油消費量削減による生産コスト削減を図るとともに、魚艙内に循環ろ過装置と紫外線殺菌装置を備えた活ガニ艙を設置し、高品質活ズワイガニの生産を行い、生産金額の向上を図り、収益性の改善を目指した実証事業を行った。

実証項目

【生産に関する事項】

①耐候性の高い船型による操業効率の向上と安全性の確保

②活ガニ生産の高度化

③コスト削減

【流通・販売に関する事項】

①柴山ブランドの確立

実証結果

【生産に関する事項】

①船首ブリッジ型でハードオーニングを導入し耐候性の強化を図った実証船の操業回数(3ヶ年平均で1，008回)は、当該地域の従来船(船央ブリッジ型)のそれ(950回)に比し6．1%上回った。耐候性の高い船型の導入、甲板下の活魚艙設置が操業の安全性の確保、操業効率の向上、選別作業の安全・効率化に有効であることを示唆している。

②実証船に循環ろ過装置と紫外線殺菌装置を備えた活ガニ艙を装備し、活魚艙での傷、脚落ち等の防止に努めた。その結果、実証船と従来船の3年間のカニの平均生産状況を見ると、斃死率は実証船5．6%（従来船6．5%）、活ガニ水揚げ量は26．2トン（24．9トン）、活ガニ水揚げ金額は73百万円（61百万円）、活ガニ単価は2，793円／kg（2，675円／kg）であった。これら装備が活ガニ生産に有効であることが示唆された。

③スリム船型、大口径プロペラ、軸発電システムの導入により実証船の燃油消費量(3年間平均で390kl)は、従来船に比して3．3%削減した改革計画の目標値398klを下回った。

【流通・販売に関する事項】

①地域のイベント等に参加し、「柴山ガニ」、「かにの選別日本一」のPRを展開し、柴山産ズワイガニの品質の良さを周知した。

収支の状況について

上記のとおり、実証項目については一定の成果を得た。収支に関して、初年度はエチゼンクラゲの大量発生に起因して漁獲量の減少と鮮度の低下により、水揚げ量154トン、水揚げ金額154百万円で、改革計画の目標値（201トン、179百万円）を下回った。また、償却前利益(9百万円)も改革計画の目標値(28百万円)を下回った。第2年度は漁場形成が不良で、水揚げ量155トン、水揚げ金額144百万円で、改革計画目標値を大幅に下回った。第3年度は水揚げ量207トンと目標値を上回ったものの、魚価の低迷により水揚げ金額は156百万円と改革計画目標を下回った。漁獲低迷、魚価安、燃油及び資材価格の高騰により何れの年度も所期の償却前利益を確保するに至らなかった。